

令和5年度 長崎スコットランド交流塾



開講式後のメンバー



バーフガフニ先生と一緒に



ベーカー博士の講話



フィールドワーク



ギャリーさんを囲んで



塾長 高比良則安

■ 塾長コメント ■

長崎スコットランド交流塾は、令和4年度に引き続いて長崎伝習所で活動することになったが、メンバーも大きく変わり、前年度の反省点から、塾生との対話を丁寧に行った。

メンバーも多士済々で、塾生会議でも議論を交わすことが多くなった。その結果、メンバー同士の交流会も定期的に行うことで、風通しもかなり改善されたと考えている。

グラバー園内の旧スチール記念学校での「長崎とスコットランドの交流の歴史展」、
「バーンズ・ナイトの開催」「ながさき異文化ちゃんぽんフェスタ」への参加など、新しいイベントにも挑戦した。

令和5年度の中途から、「塾活動が面白そうだから！」として、交流塾の活動に参加された方もおり、塾生も20人以上を超えた。

最後は、長崎伝習所まつり参加準備に一丸となるのだが、脱落者も少なく1年間の塾活動を無事に終了した。

令和6年度以降の塾活動は、塾生会議で協議した結果、「より自由度の高い卒業塾として活動する。」ことで合意したものである。

令和6年には、長崎とスコットランドの交流を実際に体験するために、交流塾の有志でスコットランド交流訪問を計画中である。

■ 塾の目的 ■

令和5年度の長崎スコットランド交流塾は、座学、交流会、フィールドワークを通じて、スコットランドとの交流の歴史を研究し、市民向けのチラシを作成し、長崎とスコットランドとの交流を長崎のまちの魅力に定着させることであった。

■ 塾の研究・活動内容 ■

第1回塾生会議（令和5年5月24日）

・長崎伝習所開講式後に、塾生会議を開催

☆「塾」選定結果の指摘①塾生と対話し塾生の意見を積極的に取り入れる。②塾活動で市民を巻き込む活動にすることを念頭に令和5年度からの新しい塾生にも積極的に意見を出しやすい雰囲気づくりに努めた。多士済々の塾生が参加したので、活動を進める中で、③塾活動をどのようにまちづくりにつなげていくか、協議・検討することにした。

第2回塾生会議（令和5年6月14日）

・塾の今後の活動イメージを協議。

・次回の「座学」について協議。

☆塾生にそれぞれ各自のスコットランドへの思いを出してもらうことで塾の活動イメージを理解していただくように努めた。

第3回「座学」開催（令和5年7月23日）

・講師はグラバー園名誉園長※ブライアン・バーフガフニ氏：テーマは「長崎で活躍したスコットランド人たち」であった。

☆「座学」は一般公開した。ブライアン・バーフガフニ氏の話は面白く、本当に「目から鱗」のようであった。参加者にも十分に満足してもらった。

第4回塾生会議（令和5年8月25日）

・9月1日からのスチール記念館での展示内容を協議。

☆スチール記念館での展示は、ウォーカー副塾長に何から何までお世話になった。グラバー園の魅力の一つに繋がれば幸である。

第5回交流会開催（令和5年9月16日）

・講師はスティーブン・ベーカー博士（スコットランド国際開発庁日本代表）と前原正人九州支部長（日本スコットランド交流協会）

☆ベーカー博士には、スコットランド全般について話していただいたが、前原氏はこれまでの経験からスコットランドとの関わりをお話しいただいた。

第6回塾生会議（令和5年10月14日）

・「スコットランドを語る会」開催：講師：スコットランド出身のギャリーさん

☆長崎市に住む唯一のスコットランド人であるギャリーさんを囲んでの懇親会を開催した。

第7回塾生会議（令和5年11月25日）

・フィールドワーク：坂本国際墓地及び新坂本国際墓地：案内は木下孝氏（「長崎に眠る外国人」著者）にお願いした。

☆坂本国際墓地及び新坂本国際墓地のフィールドワークは初めての人も多く、木下氏の詳しく説明していただき、改めて現在も墓参りに来る方もいると聞き、驚いた。

・「バーズ・ナイト」開催：ロバート・バーズの詩を楽しむ。

☆スコットランドの国民的詩人であるロバート・バーズの詩を楽しむ会を開催した。

第8回塾生会議（令和5年12月4日）

・小講話「ラグビーW杯フランス大会でのスコットランド代表の戦い方」：講師は塾生で長崎県ラグビー協会の太田伸二理事

・第1回実行委員会の結果報告
・長崎伝習所まつり参加について協議。
・ながさき異文化ちゃんぽんフェスタへのパネル参加も協議。

第9回塾生会議（令和6年1月17日）

・ながさき異文化ちゃんぽんフェスタへのパネル参加を説明

第10回塾生会議（令和6年2月20日）

・長崎伝習所まつりの準備のための作業。

令和5年度長崎伝習所まつりに参加（令和6年3月16日）

■ 塾活動の成果 ■

・「座学」「スコットランド交流会」「フィールドワーク」「バーズ・ナイト」などのイベントを開催する度に「塾活動が面白そう」と塾生が増えていった。

・塾生の役割分担でも、積極的に手を挙げていただくことが多かった。

・塾生からの提案で、「スコットランドを語る会（ギャリーさんを囲んで）」や「バーズ・ナイト（バーズの詩を楽しむ会）」、グラバー園内の旧スチール記念館での「スコットランドと長崎の交流の歴史展示」「ながさき異文化ちゃんぽんフェスタ」へのパネル参加など、塾生も大いに楽しむことができた。

・「スコットランド交流会」は、どちらかと言えば、前日の前夜祭が盛り上がり、アットホームな雰囲気の中で、スコットランドに想いを馳せた。

・12月の太田理事による小講話の中で、長崎とスコットランドのスポーツ交流は、コロナ禍で途切れてしまったが、何とか継続してほしいと望むものであった。

・長崎スコットランド交流塾も長崎伝習所の卒業塾として活動していくことになり、令和6年度は、塾生に有志によりスコットランドとの相互訪問の実現に取り組んでいきたい。

長崎スコットランド交流塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
令和5年		
5月24日(水) 19:00~20:30	市立図書館 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ①長崎伝習所開講式後の塾生会議 ②塾活動方針の説明、塾生提案も協議 ③塾の役割分担決定。懇親会も提案
6月14日(水) 18:30~20:00	長崎市役所2階 多目的スペース	<ul style="list-style-type: none"> ①今後の活動イメージについて ②各自のスコットランドへの想い ③次回の取り組みについて
7月23日(日) ①13:30~15:00 ②16:00~17:00	<ul style="list-style-type: none"> ①グラバー園内 スチール記念館 ②エイトフラッグ (大浦町) 	<ul style="list-style-type: none"> ①名誉園長ブライアン・パークガフニさん座学 『長崎で活躍したスコットランド人たち』 ②9月1日(金)~のスコットランドの交流展示の 打ち合わせ
8月25日(金) 18:30~20:00	長崎市役所2階 多目的スペース	<ul style="list-style-type: none"> ①9月1日(金)からのグラバー園内スチール記念 館での展示について ②9月16日(土)の交流会について ③その他、関連事項について
9月16日(土) 13:30~16:00	グラバー園内 スチール記念館	<p>スコットランド交流会の開催 (講師と講話内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①スティーブン・ベーカー博士 スコットランドの歴史、文化、政治、経済、観光 など全般的な紹介 ②前原正人 九州支部長 スコットランドとの交流内容とそのきっかけなど
10月14日(土) 18:30~21:00	大黒町 IRISH PUB NAGASAKI	<p>スコットランドを語る懇親会 「スコットランド人のギャリーさんと語ろう会」</p>
11月25日(土) ①13:30~15:00 ②18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ①坂本国際墓地 ②マイレグ 	<ul style="list-style-type: none"> ①「長崎に眠るスコットランド人」 フィールドワーク(木下孝さんの案内) ②バーンズナイト:スコットランドの国民的詩人 ロバート・バーンズの詩を楽しむ会
12月4日(月) 18:30~21:00	長崎市役所2階 市民利用会議室	<p>第1回実行委員会の結果を踏まえて 伝習所まつり参加についての報告と取り組みの協議</p>

日 時	場 所	内 容
令和6年		
1月17日(水) 18:30~21:00	長崎市役所2階 市民利用会議室	第2回実行委員会の結果を踏まえて 伝習所まつり参加についての報告と取り組みの協議
1月20日(土) 12:30~16:00	長崎ブリックホール3階 国際会議場	長崎異文化ちゃんぽんフェスタへ参加
2月20日(火) 18:30~21:00	長崎市役所2階 市民利用会議室	長崎伝習所まつり準備 ・伝習所まつりの役割分担 ・まつりで配布予定の物品に関する作業
3月16日(土) (9:30~11:00) 11:00~16:00	ベルナード観光通り	・(準備作業) ・長崎伝習所まつりに参加

長崎伝習所 長崎スコットランド交流塾 2か年間の活動から・・・

はじめに

令和4年度の塾活動の振り返り

令和4年度長崎スコットランド交流塾の活動は、グレイグ・レイドロー選手の招待&トークイベントにはじまり、伝習所まつりへの参加で終わりました。

レイドロー選手の招待によるトークイベントの開催は、まさに奇跡の連続でした。

塾生の中に、長崎県ラグビー協会の太田伸二理事が参加したことで、ラグビー関係者とのネットワークが広がり、また、森谷商会に勤務する成末勲さんが入塾されたのも、資金面で大きな原動力になりました。



グラバーパイプバンドのウォーカー・ジェームズ正良さん（令和5年度の副塾長）には、歓迎のバグパイプを演奏していただくなど、



レイドロー選手にも大いに喜んでいただいた。会場選びの際に、出島メッセ長崎の（当時の）鹿男館長が、一緒にスコットランド代表チームの長崎キャンプの誘致に行ったメンバーだったことも幸いしました。

トークイベントの来場者の中には、遠く関東や関西、福岡県からも来ていた方もいて、熱心なラグビーファンの熱意を感じました。



トークイベントの開催にあたり、長崎県ラグビー協会様、森谷商会様、ながさき MICE 様、浦安 D-Rocks 様、長崎日英協会、長崎国際観光コンベンション協会をはじめ多くの関係者のご支援を得て成功裏に終了することができ、改めて厚く感謝を申し上げます。

ただトークイベント終了直後には、ロスも大きく、しばらく塾活動に何も手につかない程でした。

しかしながら、長崎伝習所まつりが迫ってきて、少しずつエンジンがかかり始めて、無事に3月の当日を迎えたのでした。

令和5年度の塾活動の開始

令和5年（2023）5月24日（水）に、長崎伝習所の開講式があり、



開講式後、集まった塾生の皆さんに、今年度の取組みの方向性を説明しました。

令和5年度「塾」選定審査会の指摘事項を念頭に、①塾生の意見を積極的に取り入れ、②市民を巻き込んだ活動を行う、ことに努めました。令和5年度は、新しい塾生も沢山いることから、話しやすい雰囲気づくりに気を付けました。



そのために、第2回塾生会議には、塾生の意見を聞く場として、それぞれのスコットランドに対する思いなどを話していただきました。その結果、長崎とスコットランドの歴史を学ぶ「座学」から始めることになり、講師の選定、場所についても協議を重ねました。

「座学」の開催

7月23日（日）には、講師をグラバー園の名誉園長のブライアン・バーフガフニ先生に

お願いして、グラバー園の旧スタイル記念学校で「座学」を開催しました。

座学のテーマは、「長崎で活躍したスコットランド人たち」として、バーフガフニ先生がユーマアあふれる話術で会場に出席した方々を魅了しました。（内容は別紙記載）



長崎とスコットランドの交流の歴史展

ウォーカー副塾長からの提案もあり、「長崎とスコットランドの交流の歴史」をグラバー園内の旧スタイル記念学校1階で、9月1日（金）から展示することになりました。（現在も展示中です）

「交流会」の開催

9月16日（土）には、スコットランド国際開発庁 駐日代表のスティーブン・ベーカー博士と日本スコットランド交流協会九州支部長の前原正人氏を囲んで、スコットランドに関する全般の研究と交流の進め方等について、意見交換を重ねました。（内容は別紙記載）



「スコットランドを語る会」を開催

10月14日(土)には、塾生の提案により、長崎市に住む唯一のスコットランド人であるギャリーさんを囲んで、スコットランドについて語り尽くしました。ギャリーさんは、スコットランドのグラスゴー出身で、現在は、長崎市で英語を教えています。



フィールドワークの実施

11月25日(土)には、坂本国際墓地や新坂本国際墓地をフィールドワークしました。「長崎に眠る外国人」の著者でもある木下孝先生に両国際墓地を案内していただきました。



「バーズ・ナイト」の開催

11月25日(土)の夜には、スコットランドの風習である「バーズ・ナイト」を再現するため、長崎駅前のアイリッシュパブ「マレイグ」で、スコットランドの代表的詩人の

ロバート・バーズの詩を楽しみ、ウォーカー副塾長のバグパイプの調べを楽しみました。

ラグビーW杯フランス大会から

12月4日(水)の塾生会議の冒頭に、長崎県ラグビー協会理事でもある太田伸二さんに、ラグビーW杯フランス大会でのスコットランド代表チームの戦いぶりについて講話をしていただきました。それによると、スコットランド代表のくじ運が悪く、結果、予選落ちとなったことが報告されました。



ながさき異文化ちゃんぽんフェスタへ参加

令和6年(2024)1月17日(土)には、長崎市国際課主催のながさき異文化ちゃんぽんフェスタにパネル参加することになりました。このイベント参加もウォーカー副塾長の提案により、グラバーパイプバンドの展示と連携しての参加となりました。

長崎伝習所まつりへの参加

3月16日(土)には、長崎伝習所まつりへの参加となりましたが、昨年の経験も生かしてスムーズに準備も進むことになりました。市民向けのチラシ作成も、日本語と英語の併記のチラシを作ることができて、後々に誇れる立派なものが完成したと思っています。

卒業塾として

お陰様で、令和6年度の塾活動は、長崎伝習所の卒業塾として活動することになりました。

まずは、塾生の有志でスコットランドを訪問して、交流を深めたいと考えております。

また、スコットランドからの長崎への訪問も予定されており、コロナ禍では難しかった人的な交流を再開したいと思っています。

私たちの取組みが、長崎のまちづくりに少しでも役に立つことがあれば、幸いです。

伝習所事務局の皆様にも、本当にありがとうございました！（謝・謝♥）

バグパイプの調べに誘われて

土持 保恵

昨年度の伝習所まつりでブースを訪れ、塾の活動や展示物に心動かされました。彼らからのレガシーを大切にしながら、今年度の活動に取り組んできました。

バークガフニ先生の座学では、長崎で活躍したスコットランド人についての知見を得ることができ、時を超えて彼らと語り合いたい妄想にかられました(笑)。

木下先生との坂本国際墓地でのフィールドワークは、先の座学で知りえた故人の墓石を前にし、彼らの人生に触れられたような感慨深い体験でした。

また、長崎市在住唯一のスコットランド人である Gary さんとの語らいやパブでバグパイプの伴奏で蛍の光をみんなで歌ったバーンズナイトは、スコットランドを身近に感じる楽しい集いでした。

ベーカー博士と前原氏の座学では、今のスコットランドを近く感じることができ、行って触って感じたい！現地訪問へ向けての気持ちが強くなりました。

最後になりますが、私的には様々なバックグラウンドを持つ方々と塾を通して交流できたことが何よりの成果といえます。ありがとうございました。

交流塾を通しての気づき

グリーン 理佳

この1年の間に、交流塾で行われたブライアン・バークガフニ先生やスコットランド国際開発庁のスティーブン・ベーカー博士の講演イベント等に参加させていただきました。

先生方から、グラバーさんら「スコットランド人達の幕末、明治時代の長崎への貢献」、

「スコットランドの文化や歴史」についてご教授いただきました。

イベントの帰り道、開催地のグラバーガーデンから長崎港の美しさを見て、ふと「北海やスコットランド周辺とは違った空の色、南国の海の碧さで、居留地に邸宅を構えた先人たちも感銘を受けたらうな！」と今までと違う視点で景色が見え、はるか昔の居留地の住民たちが急に身近に感じられた気がしました。

人は知らないことについて興味を持つことはできません。

交流塾の活動を通じて様々な方々と交流し、知らないことを教えていただき、その学びから新たな気づきを得て多くの事に興味をもった1年でした。

長崎スコットランド交流塾に参加して

高山 雄彦

令和4年度長崎伝習所の塾生募集をメールで見、多くの塾生募集の中でも特に「長崎スコットランド交流塾」に目が止まりました。

その時、スコットランドの言葉で思い浮かんだのは、ラグビーW杯日本大会でのスコットランドチームの長崎キャンプ誘致でした。

私は、若い時代にラグビーを経験し、ラグビーのすばらしさと楽しさは、私の中でNo.1スポーツであり、また職場の先輩からの誘いの声もあり、交流塾への参加を決めました。

私は、大浦の生まれで、私の部屋からは、グラバー園やジャイアントクレーンが毎日目に入り、グラバー園上の広場でもよく遊んでおりましたが、スコットランドとの関連性はほとんど知りませんでした。

今回、この交流塾に参加したことで、長崎とスコットランドとの幕末から長い交流の歴

史を初めて知り、日本の文明開化やその後の発展にスコットランドの方々の大きなお力添えがあったことに大変感動しました。

また、スコットランドチームの長崎キャンプ誘致の裏には、長崎市側の強い熱意を持った多くの方々の努力とスコットランドの皆様のお心温かい思いとの繋がりで実現できたことも知りました。

令和4年度の塾活動では、ラグビーW杯日本大会の時に長崎市に誘致したスコットランドチームの元主将のレイドロー選手の招待も行き、その交流会は大変な盛り上がりを見せ、参加された市民の方もスコットランドへの親近感がさらに深まったものと思います。

さらに、令和5年の塾活動では、新たに多くの熱意ある塾生を迎え、多くの活発な意見交換や講演会、交流会がありました。

ただ、私の場合、仕事の都合と塾の開催日が重なることが多く、多くの貴重な講話や屋外活動には参加が叶わず、残念な思いです。

2年間の交流塾の活動を通じて感じたことは、長崎とスコットランドとのこれまでの深い絆や繋がりを大切にして、スコットランドと長崎がさらに発展しますよう、また、交流塾を通して出会いました塾生の方々との交流を今後も継続しながら、さらに交流の輪が広がりますよう努めていきたいと思っています。

ブライアン・バークガフニ氏「座学」開催報告

長崎スコットランド交流塾主催

1 日時等

- (1) 日時：令和5年7月23日（日）13:30～15:00
- (2) 場所：グラバー園 旧スチール記念学校
- (3) 講師：ブライアン・バークガフニ氏（グラバー園名誉園長）
- (4) 演題：「長崎で活躍したスコットランド人」

2 内容

- (1) 塾長挨拶：高比良則安塾長
- (2) 講師紹介：司会（馬場豊子さん）
- (3) 座学の概要

長崎スコットランド交流塾としては、昨年8月に続き、2回目のバークガフニ先生の講演となった。日本に滞在してすでに51年目を迎えたバークガフニ先生の自己紹介にはじまり、スコットランドから長崎に渡り活躍した人物について、自己の研究成果としてユーモアを交えながら説明をされた。

特に、昨年は「長崎に眠るスコットランド人」をテーマにした講演であったが、今年は「長崎で活躍したスコットランド人」をテーマとして、有名なグラバー以外の、必ずしも長崎で亡くなった方ばかりでなく、マッシーやウォーレス等の長崎で活躍したスコットランド人にも焦点をあてて解説された。

解説にあたっては、出席者に理解しやすいように、新たに発見した内容をこれまでの定説と比較し、具体的に解説された。

講演内容のいたるところに、研究者としての長崎とスコットランドに対する熱い思いが感じられるとともに、長崎とスコットランドの文化や、長崎人とスコットランド人の気質などを独自の視点で解説された。

（細部は別紙第1「講話細部」のとおり。）

(4) 質疑応答

質疑として出された事項は次のとおり。講師の回答は、別紙第2「質疑応答事項」のとおり。

ア トマス・グラバーと岩崎弥太郎の関係、三菱のコンサルタント業務はどのようなものか。

イ 伊王島の初代灯台を設計した人がスコットランド人と聞いたが、その人物は長崎で活躍されたのか。

ウ 自己の研究において難しかったこと、嬉しかったことは何か。

【講話細部】

1 導入（自己紹介）

（バークガフニ先生は）日本に滞在して51年を迎えた。最近、スターバックスの若い店員から「日本語が上手ですね！」と褒められたが、日本の若い人より長く日本に滞在している。（笑）

当初は、禅の修行のため、京都に滞在していた。10年くらい修行した後、次のステップアップについて悩んでいた時に、長崎を訪れる機会があった。

長崎については、原爆以外に知っていることはほとんどなかったが、実際に長崎を訪れてみて、その多彩な国際交流の歴史に驚いた。

眼鏡橋を見て、中島川にかかるアーチ形の石橋などは、京都にはなく日本に来て初めて見た。まるでヨーロッパの風景を見ているかのごとく感じた。

新地中華街、唐人屋敷跡などは中国の風景、東山手の洋館がある風景などは、カナダのウィネペグ州の自分の故郷を思い出させるような風景だった。

特に空き家の洋館などは、窓から中をのぞくと暖炉があり、まるで自分の祖父がそこにいるかのごとく錯覚をしてしまう。日本の長崎にしながら、郷愁を覚える、という不思議な体験をした。

長崎のことをさらに勉強したいと思って、当初は半年の滞在を考えていたが、気づいたら40年以上も経過しており、最近、最終目的地を「坂本国際墓地」と考えるようになった。（笑）

とにかく長崎に対する興味が尽きない。特に旧外国人居留地界隈に居住していた人々の歴史は、まだ知られていないことが多く、今も調査を進めている。

長崎では、自分は普通に「ブライアン」と呼ばれているが、自分の苗字はバークガフニである。バークとガフニは二つに分かれ、双方とも典型的なアイルランド系の名前である。私の父方はアイルランド系で、祖父は鉄道技師としてカナダに移住した。

母方はスコットランド系であり、スコットランドにゆかりのある子孫として、本日の講演テーマとは決して無縁ではないと考える。

スコットランドに興味のある長崎の皆さんをできるかぎりバックアップしていきたいと考える。

ところで、アイルランド人とスコットランド人の気質をいうと、アイルランド人は「酒飲み」で「短期」、スコットランド人は「けち」で、一番悪い組み合わせである。（笑）

日本に滞在して51年となったが、最近、自分の日本語はもうこれ以上、上手にはならないと思う。一方、私の英語はどんどん劣化してきていて、このままでは一体どの言語を使用していけばよいのか迷っている。（笑）

講演のお聞き苦しい点はご容赦願いたい。

去年は、「長崎に眠るスコットランド人」ということで講演をさせてもらったが、今

年もそれをベースに話をさせてもらう。

ただし今年はそれだけではなく、新たに付け加えた部分も含め「長崎で活躍したスコットランド人」ということで話をする。

2 展開

(1) 英国の中のスコットランド

日本でいう「イギリス」はもともとポルトガル語であり、英国又はUKのことである。UKは、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドの連合王国のことであり、アメリカ合衆国のようなものである。

スコットランドは、イングランドの北側に位置し、民族も文化も異なる。スコットランドは、ケルト系の人々が多く、どちらかというといイングランドとは敵対してきた歴史が長い。

スコットランドの首都は、エジンバラであり、トーマス・グラバーのゆかりの地であるアバディーンとその北部にあるフェイズバラが彼の出生地である。

ご存じかもしれないが、スコットランド人はアイデンティティを強く持っており、「イングリッシュ（イングランド人）ではない！」と強調する。そのような点は自分の出身地であるカナダとの共通点もある。明確にアメリカ人ではなく、アクセントもカナダ人であると強調して言う。（笑）

グラバー園のグラバー像の説明の英文も、当初はグラバーを「イングリッシュマン」と書いてあったが、今では「スコットマン」と修正されている。

言葉、宗教、文化の面でも決してイングランドと同じではないことがわかる。

英国版「万里の長城」が、イングランドとスコットランドの国境にある「ハドリアヌスの長城」である。ローマ帝国時代に建設されたものであるが、ここまでがローマ帝国、ここから先が当時「野蛮人」とされたスコットランド、ケルトの国と認識されていた。余談であるが、この長城で使用された建材の石は、建築用資材としても適したものであったことから、多くの石が、長い間に盗まれてしまっている。

(2) 世界にわたったスコットランド人

私の先祖は、スコットランドやアイルランドからカナダに渡ったが、スコットランドは非常に多くの人材を輩出している。

北米大陸（カナダ、アメリカ）、それからアジア、オーストラリアなどに多くの人々が渡り、そしてそこで母国には戻らないで現地の人になった。

特に、アメリカ或いはカナダの社会を見るとスコットランドの影響が強く、例えばロッキー山脈にある有名な観光地であるバンフがあるが、これはスコットランドのアバディーンシャーにある町に由来する。

カナダの最初の総理大臣マクドナルドもグラスゴー出身である。

自分は、自分が話す英語は「なまり」がないと思っていたが、ヨーロッパで現地の人との会話で「カナダ人か？」と言われて驚いた。それまで出身地が明確にわかるほ

どの「なまり」はないと思っていた。しかしそんな経験を通じて、ある意味で国際人の必要条件の一つが、皆「なまり」があり、皆それぞれ背景にある「匂い」があるということを知った。

特に、カナダの英語では、スコットランドの英語の影響があったと思う。

あらためてカナダとスコットランドの深いつながりを知った。

(3) 長崎で活躍したスコットランド人

ア ケネス・マッケンジー

トーマス・グラバーの先輩格のスコットランド人であり、安政開港の立役者、居留地建設にも多大な貢献をした。

長崎で亡くなり、大浦国際墓地に眠っている。

彼の写真は残ってなく、グラバー園でも関連説明は少ない。

最近、子孫と交流を持てるようになり、今後さらに研究を深めていく。マッケンジーには3人の娘と1人の息子がいたが、彼らの情報を提供してもらい、研究の資料としている。

(以下は昨年資料引用)

1859年 上海の「ジャーディン・マセソン商会」の代表として来崎。

初代フランス領事、長崎居留地最初の消防隊隊長に従事

1861年 当時助手であったトーマス・グラバーに土地と事業を引き継ぎ、清国へ戻る。同年グラバーが「ジャーディン・マセソン商会」の代理人として「グラバー商会」を設立した後、

1867年 再び来崎し、「グラバー商会」を手伝い、新設された大阪支店の支社長として勤務

1870年 同社が倒産するまでその職に就いた。

その後、健康を害すと仕事のパートナーであり、友人であったグラバーの側で暮らすため長崎に戻った。

1873年 南山手のグラバー邸で生涯を閉じた。

イ ジェームズ・ミッチェル

アバディーン出身、安政開港と同時に来崎、「サガリマツ」（現在、松が枝町、小曾根町周辺）で「アバディーン・ヤード」という名称で造船業を営む。日本初の英字新聞「ナガサキ・ SHIPPING リスト・アンド・アドバタイザー」に広告を掲載し、多くの船を作った。特に、ウィリアム・オルトのために、日本で初めての西洋式ヨット（ファントム号）を作ったことは有名である。この船の進水式の様子も、前出の英字新聞に掲載されたが、この新聞も、文久元年（1861年）から昭和3年（1928年）まで発行されており、当時のことを研究するための貴重な資料である。

ミッチェルは、海南事故で亡くなった兄弟たちのために、大浦国際墓地に墓を作

った。この秋に長崎スコットランド交流塾主催で国際墓地に関する調査も行われる。

(以下は今年の資料引用)

ミッチェル兄弟 9 人兄弟姉妹のうち四男ジェームズを除き、兄達は若くして船乗りになった。長男ウィリアムは船長で 1868 年エチオピアで死亡、三男ジョージも同じく船長で、1871 年長崎で死亡したが埋葬記録がない。

次男アンドリューはイギリス帆船「シティ・オブ・ナイアガラ号」(船主は四男のジェームズ・ミッチェル)の船長をしていたが、1874 年 3 月 19 日 大沽(たいこ: 中国天津にある港)へ出港し、途中、五島列島沖で難破し死亡、遺体は発見されなかった。

ジェームズは兄達を偲び、石像を製作させ記念碑を建立した。

ジェームズ・ミッチェルは長崎外国人居留地に安住した最初の一人で、1859 年来崎後、浪の平に「アバディーン造船所」を設立し、ウィリアム・オルトとその家族の依頼で、日本で最初のヨット「ファントム号」を建造した。

また、彼は同じアバディーン出身のトーマス・グラバーの「小菅修船所」の建設に造船技師として活躍した。

1880 年まで長崎に在住し、後に上海で「プータン造船所」を開設、

1885 年に釜山の無人島で、上海市場に出荷するための木材伐採の仕事を手掛けたが、1890 年この島を日本が統治したため、彼は権利を放棄し、神戸へ移り外国人居留地で建築業を営んだ。

1903 年に妻と 4 人の子供を遺し死亡、遺体は神戸外国人墓地に埋葬された。

ウ ジョン・コルダー

岩崎弥太郎に抜擢され、三菱長崎造船所、初代マネージャーとなった。

名前だけの日本人の所長の下、実質的な造船所長の役割を果たして、技術的な指導を行った。

現在は、愛知県にある明治村に移築されたが、当時、南山手 25 番にあった洋館の居住者であった。

最近、三菱造船所のOBが「長造よもやま話 創業 150 周年記念」という本も出ているが、コルダーのことは忘れ去られてしまっており、功労者たるコルダーの記事がない。彼の情報を発信して、もっと評価してもらいたい人物である。

エジンバラにフリーメイソンの本部があるが、その支部として長崎支部をマスター(支部長)として創設した。フリーメイソン長崎支部には、三菱長崎造船所の技師として所属したロバートソンやジョン・ヒルなども名を連ねている。エジンバラの本部には長崎支部の名簿もあるが、グラバーやリンガーの名前は確認できず、彼らはメンバーではなかった。

グラバーは、坂本龍馬にフリーメイソンの思想を伝えたともいわれるが、これはいわゆる都市伝説であり根拠がない。長崎とフリーメイソンは、正しい内容を伝えていく必要がある。

1909年には、スコットランドのグラスゴーからカンチレバークレーン（アップルビー社製）が長崎造船所に導入された。驚くべきことに第2次世界大戦の戦火を乗り越え、また敵性語（てきせいご）として排斥された英語表示も導入当時のまま、現在でも現役である。スコットランドと長崎の友情関係の証の一つとして残されている。

世界にも有名な三菱長崎造船所の創設にあたっては、彼らのようなスコットランド人の貢献があったことをもっと発信していきたい。

（以下は昨年資料引用）

1867年頃 機帆船「コケッテ号」の機関士として来崎。大浦にある技術会社「ボイド商会」に入社

1876年 支店開設のため横浜へ赴任

1879年 同商会は「郵便汽船三菱会社」に合併されたが、彼は引き続き勤務

1881～84年「大阪製鉄所」の所長に就任

1884年 長崎へ戻り「三菱造船所」の技術部門の所長に就任

1887年5月 三菱で4番目の鋼鉄船「夕顔丸」206トンを建造

1892年5月23日 舌癌のため死亡

彼は、長崎滞在中に、フリーメイソンの長崎ロッジ創設、初代支部長に就任した。

また、彼が建てた南山手25番地の自邸は、現在愛知県犬山市の明治村に「南山手25番館」として保存されている。

エ ジョン・マッシー

アバディーン出身のホテル経営者、グラバーと交流長崎の女性（エイカワ・リン）と結婚し、大浦界隈でインターナショナル国際ホテルを経営した。

子供はなく、長崎で亡くなり、妻の家の墓に埋葬されたので、国際墓地には墓はない。

オ ウォーレス

ホーム・リンガー商会の幹部

家族とともに20年～30年、南山手9番地に居住し、その後、スコットランドに戻り亡くなる。

ホーム・リンガー商会は、長崎の経済において特に重要な役割をおっており、各種記念撮影の写真を見る限り、県知事をはじめ長崎の人々からも敬愛されていた様子が

うかがえる。

カ 倉場富三郎

トーマス・グラバーの息子として、明治3年12月8日に生まれた。

日本の実業家、水産学者で、雲仙に初めてゴルフ場を開設した。背景には、多くのスコットランド人が自分の国のスポーツをしたいという思いがあったと思われる。

当時の呼び名は「ゴロフ玉投げ場」という面白い名称であった。富三郎は当該ゴルフ場に日本人も外国人も双方が楽しめる「長崎ゴルフクラブ」を創設（会長は長崎県知事）し、当時、日本で珍しかったゴルフを紹介した。

キ フィンレイ

小浜を避暑地として開発した。また長崎県の自動車導入に貢献した。

1911年に1台の自動車を小浜に上陸させ、九州を1周した。

坂本国際墓地に眠っている。

ク ジェームズ・W・ドナルド

実業家。来日当初、横浜で就職し、日本人女性と結婚、5人の子をもうけた。

その後、長崎に移住し東山手12番地に居住したが、かなりの年配であり、子供が小さいうちに長崎で亡くなった。坂本国際墓地に埋葬されている。

子孫と連絡がとれて、様々なことが判明してきた。子供の一人のハミルトンは英国軍に入隊し、第1次世界大戦にも従軍している。後に日本に帰国した際、「ドナル」というカタカナの姓で生活した。

また孫の一人であるドナルみち子氏は宝塚歌劇団で活躍した。ドナルみち子氏の希望で、スコットランドの先祖探しを手伝い、2003年には、みち子氏がスコットランドを訪れ、スコットランド側の親族と出会いを果たした。

ケ トーマス・グラバー

アバディーンの北にあるフレイザーバラ出身の実業家。スコットランドを出て、上海まで来た後、現地のジャーデン・マセソン商会に就職した。

これまでの研究では、上海に至るまでの彼の動きが不明である。

彼が親のために立てた石造りの家が今も残っているが、三菱が購入し、フレイザーバラ市に寄贈されたが、現在、上手く観光資源としては活用されていない。

生麦事件の件で、薩摩藩士から命を狙われているジョージ・モリソン英国領事が上司にグラバーの人となりや報告している。「日本語が堪能で、武士との交流があり、彼らの尊敬を集めている」とあるが、若い人物にもかかわらず、グラバーの「有言実行」の性格が日本人の尊敬を集めたのではないかとと思われる。

グラバーは「死の商人」といわれているが、それは自宅に大砲を据え付けている写真から植え付けられたイメージである。当時、彼の家を訪れた日本人の発言からも、

大砲は単に彼の財力を示すために据え付けてあった飾りであると考える。

グラバーの役割は英国産業革命の様々な技術を紹介することであったと考える。蒸気機関を実用化したワットもスコットランド人であり、今後の日本の炭鉱開発のため、

蒸気機関や鉄道が大変役立つと考えた彼は、私費を投じて小型の蒸気機関車を長崎で紹介した。

蒸気機関車の紹介からわずか7年後に、新橋～横浜間で日本初の蒸気機関車による鉄道運航が開始されるなど、明治日本の驚異的な発展の裏で、グラバーの果たした功績は大変大きいと考える。

その他、グラバーの関係した各種技術開発は数多くあり、奄美大島の製糖工場、小菅修船所、高島炭坑の創設や開発の中心となった。

肥後藩からグラバー商会を通じて発注された装甲艦「ショウジョウ丸」は、肥後藩の支払いが滞ったことから、グラバー商会の倒産に繋がった。

なお、同艦は後に日本海軍の軍艦となり、明治天皇の御召艦となった。

しかし、グラバーと交流のあった幕末の志士達が、その後のグラバーを支援しており、グラバーが最後まで日本に残った理由でもある。

グラバーには4人子供がいたが、富三郎と「はな」以外の二人は早世した。

4人とも母親は別である。最後まで一緒であった、つる夫人は英国国籍を取得しておらず、日本国籍のままであった。

グラバーの葬儀には、明治の元勳や三菱社長が友人代表として参列しており、まさに明治を象徴する外国人である。

(以下は昨年の記事を引用)

トーマス・グラバーは 1859 年に来崎し、K・R・マッケンジーのもとで勤務した。1861 年 「グラバー商会」を設立。幕末動乱の時期に日本人に銃や艦船などを大量に販売、また茶、絹、銀等の特産物を輸出して莫大な利益をあげた。

しかし、大量の武器買い付けやその後の高島炭坑の経営難等から会社は倒産したが、三菱の顧問に迎えられ、麒麟ビールの前身「ジャパン・ブルワリ・カンパニー」の設立にも尽力した。

1908 年 日本政府から近代化に向けて多大な貢献を遺したことで、勲二等旭日賞を授与された。なお、彼が尽力した殖産事業には、次のものがある。

「屠牛場の建設、蒸気機関車の運走、製茶所の設置、小菅ソロバンドックの創設、大阪造幣局建設に関与、高島炭坑の開発」、また、これらの事業以外にも見逃せないのは幕末から明治維新にかけての激動の時期に、勤皇の志士達に物心両面で援助し、王政復古の促進に寄与したことである。

(4) その他

多くの客船がスコットランドで建造されたが、その中でも長崎丸と上海丸といった

重要な国際航路でも使用された。

客船の乗船記念に配られたであろう絵葉書が多く現存しており、自分も含めコレクターがいる。妻には大反対されながらもコレクションを続けている。(笑)

3 結び

グラバーに関する研究はまだ道半ばである。

先日、カナダのビクトリア州の新聞社にガラス盤の13枚の写真が匿名で送られてきた。カナダ在住の自分の娘経由で情報を得たため、新聞社とコンタクトしたところ、グラバー関連のものということがわかった。

いまだに新たな写真などが出てきており、今後ますます研究資料として、様々なものが出てくると思われる。

グラバー邸は独特の建築スタイルを持っており、日本の内外から注目されている。

「蝶々夫人ゆかりの地」や龍馬の隠し部屋などの都市伝説もある。

それがこの建物が持つ魅力、ミステリーである。

これからも南山手に住んでいたスコットランド人やその他の国の人々の活躍を研究していきたいと考える。

研究にあたっては、こちらの長崎スコットランド交流塾の皆さんの協力も得たい。よろしく願います。

【質疑応答事項】

質問1 トーマス・グラバーと岩崎弥太郎の関係、三菱のコンサルタント業務はどのようなものか。

回答：基本的にグラバー自身が回顧録を残しているものではないので、多くの部分は不明である。まさに影での活躍というものであるが、少しの部分は判明している。

岩崎弥太郎に東京に呼ばれて、VISAの問題の解消に努めたり、弥太郎の死後も息子の弥之助とも交流を深め、彼の米国留学にも貢献した。

岩崎家とは家族ぐるみのつきあいがあった。

その他、鹿鳴館時代の伊藤博文をはじめ、政府高官との付き合いもあり、日本の産業育成にも貢献したと思われる。

その一つが日本におけるビール産業の確立である。後のキリンビールの前身となる「ジャパン・ブリュワリー・カンパニー」の設立にも貢献した。

その他、英国高位貴族（ダイアナ妃の祖先 スペンサー伯爵）の来日にあたってアテンドをした記録もある。

ただ、やはり記録が少ないので今後の研究を深めたい。

質問2 伊王島の初代灯台を設計した人がスコットランド人と聞いたが、その人物は長崎で活躍されたのか。

回答：ブラントンという人物が設計した。灯台建設期間中は、長崎のホテルに逗留していただろうが、その後も長く長崎で活動したという記録はない。その他の地域の灯台も設計している。

質問3 自己の研究において難しかったこと、成果を得られてうれしかったことは何か。

回答：困難なこととは、まさにゼロからのスタートであったこと。

例としては、グラバー園が市の直営だったころの説明表示で「蝶々夫人」という言葉が出てきたが、管理事務所に、どのようなゆかりがあるのか説明を求めても答えが出てこなかったことから、全て自分で調べなければならないと思った。

「居留地」のこともほとんど研究されてなく、「外国人墓地」の埋葬リストもなかったもので、一から調べた。

埋葬されている外国人のことを調べていく中で、埋葬された外国人の血縁者が見つかり、調査をしようとした。

子孫が外国人の場合は、喜んで祖先のことを知ろうと調査に協力してくれるのだが、中には日本人との婚姻で子孫が日本人のケースもあり、「混血」、第2次世界大戦等、様々な要因や事情もあり、場合によっては「調査をしてくれるな！」と言われる場合もある。

長崎で長年オークション業などを営んでいた米国商人のR. H. パワーズの娘である「中山まさ」もその例である。

元外務大臣の中山太郎氏が、パワーズは自分の祖父ということで坂本国際墓地にお忍びで墓参りに来ていた。

当時は「居留地」のことがほとんど研究されていなかったし、逆にこここそが自分が調べるべき点であると認識した。

研究をしていて喜ばしいことは、やはり発見をすることである。

調査研究の結果、新たな事実を発見することが醍醐味である。

スコットランド交流会の開催報告

1 講師

- (1) スティーブン・ベーカー博士
スコットランド国際開発庁 駐日代表 (日本スコットランド交流協会 会長)
- (2) 前原正人氏：日本スコットランド交流協会 (JSA) 九州支部長

2 日時：令和5年9月16日(土) 13:30~16:30

3 会場：グラバー園 旧スチール記念学校 2階

*1階では、「長崎とスコットランドの交流の歴史展示」9月1日~開催中

4 参加者：塾生 16人、一般 13人、合計 29人

5 講演内容

- (1) 高比良塾長の冒頭挨拶
- (2) 講演 (ベーカー博士)

ア スティーブン・ベーカー博士の経歴紹介 (司会から)

1985年：ソニー中央研究所(横浜)に研究員として入社

本社 R&D 戦略グループ、記録メディアグループ
データストレージグループ

2003年：新ソリューションビジネス立ち上げ責任者

2006年8月：スコットランド国際開発庁勤務

11月：スコットランド国際開発庁駐日代表(日本スコットランド交流協会会長)

*ラグビーW杯日本大会において、スコットランドチームの長崎市での事前キャンプ実現に大きく貢献していただきました。(司会)

イ スコットランドの紹介

2014年に初めて長崎に来て以来、長い付き合いとなった友人がいる。

長崎市とご縁があるスコットランドをスライドにより紹介。(以下)

- ・湖や島が多い (美しい景色)
- ・3000もある美しいお城 (ハリーポッターの舞台となったお城)
- ・2つの国立公園 (歴史的価値)
- ・食べ物 *Haggis and Burns Night (羊の内臓を羊の胃袋に詰め茹でた伝統料理)
- ・ウイスキー (スコッチウイスキー)
- ・アザミ、ケルト、ダンス・・・スコットランドの伝統
- ・国旗の由来 *ライオンとユニコーン (架空の生き物)

ウ スコットランドと日本

- 英国人船員ウィリアム・アダムス（三浦按針）が 1600 年日本初の英国人。
アダムスは、江戸時代初期に将軍徳川家康の外交顧問として仕えた。
スコットランド王ジェームス 6 世とイングランド王 1 世は、アダムスを通じて徳川幕府との関係を築く。

⇒ 日英和親条約（1854 年）締結：（調印ジェームス・スターリング提督）

- トーマス・ブレイク・グラバー（フレーザーバラ出身アバディーン育ち）
1859 年日本に移住し、長崎で活躍（1861 年自社設立）
1863 年 長州藩の若者 5 人 英国に密航させた。（ロンドン大学に進学）
帰国後、日本の近代化・工業化の顕著な功績をのこす。

*長州ファイブ(2007 年 映画公開)

伊藤博文：日本初代首相

井上 薫：日本初代外務大臣

井上 勝：日本鉄道システムの父

山尾庸三：帝国工科大学の創立者

遠藤謹助：日本の統一通貨の創設者

1865 年 幕末期に薩摩藩が英国に使節団を派遣。

*薩摩十九士（3 人の視察係と 15 人の留学生、通訳 1 人）

五代友厚は、近代日本で名を馳せた（大阪商法会議所設立等）

スコットランド初の日本人としては、岩倉使節団が正式な接触であったが、その前に薩摩十九士の 3 人がアバディーンの学校に通い、トーマス・グラバーの家に滞在した。

3 人のうちの 1 人、長澤鼎（かなえ）は後にアメリカに移住し、カリフォルニアでワイン造り「ワイナリーキング」となり、生涯スコットランド訛りの英語を話す。

エ 学術連携

- 「海洋再生可能エネルギー研究と水産養殖における学術的協力」
セント・アンドリュース大学、長崎大学、スコットランド海洋科学技術海洋同盟（MASTS）によるプロジェクト
- 水産養殖に関する共同ワーキンググループ設立
- 海洋再生可能エネルギー、洋上風力発電開発の社会的、文化的影響
Scot Wind：洋上風力発電（浮遊式含む）
- 今後も、日本とスコットランドとの交流は続く

(3) 講演（前原正人氏）

ア 建設業を経営していた私と英語との関わり（自己紹介）

～学びが出会いを生む・出会いが学びを生む

- イ 60歳を過ぎ、技術系の仕事を退く。(仕事の引退後)
健康寿命が平均72歳・・・病歴を持つ自分に残された6~8年、何をすべきか？
文化的なものに対するあこがれが学びの世界へ

- ウ スコットランドと交流を始めたきっかけ
英国大使館のパーティーに参加し、日本スコットランド交流協会(JSA)の前会長、
関先生(早稲田大学)と出会った。
⇒スコットランドスターリン大学等との交流

- エ スコットランドのアバディーンを訪れた時分かったこと
⇒ グラバー氏はアバディーン出身
⇒ 英国は、4つの地域からなる・・・知らなかった!

- オ 日本スコットランド交流協会(JSA)としての活動

- カ 私の現在：日本スコットランド交流協会九州支部長として活躍されている

- キ 興味を持つ、学びの勧め・・・NHK放送大学 等

(4) 質疑応答：タータンについての質問が集中

終始、和気あいあいの雰囲気の中、講演終了しました。

長崎スコットランド交流塾

塾長	高比良 則安				
1	井手 一也	21	濱崎 百合子		
2	井出 信人	22	湯口 隆司		
3	ウォーカー・ジェームス正良（副塾長）	23	吉田 睦子		
4	太田 伸二	24			
5	木下 正昭	25			
6	熊川 武俊	26			
7	グリーン 理佳	27			
8	坂田 絵美	28			
9	佐藤 秀人	29			
10	島田 和文	30			
11	高橋 亜美	31			
12	高山 雄彦	32			
13	竹下 祐一	33			
14	伊達 文秀	34			
15	谷内 正	35			
16	谷内 貴代	36			
17	田畑 祐子	37			
18	土持 保恵	38			
19	成末 勲	39			
20	馬場 豊子	40		事務局員	国際課 小俣 健嗣